

ヘルスケア事業(HCB)

VISION Going for ZERO ～予防医療で世界を健康に～

SF2030ビジョンに込めた思い

ヘルスケア事業では、家庭で測定した血圧が人々の健康に役立つという信念のもと、その普及に取り組んできました。今では、高血圧治療の現場で家庭で測った血圧データが活用されるようになり、高血圧患者の降圧コントロールにも成果が見られます。しかし、高齢化に伴い高血圧患者はグローバルに増え、高血圧に起因する脳・心血管疾患の発症も増加しています。加えて、新興国を中心に増え続ける呼吸器疾患患者、日常生活に大きな影響を与える膝や腰、肩の慢性的な痛み。これらは人々のQOLを著しく低下させてしまいます。

SF2030のビジョン「Going for ZERO ～予防医療で世界を健康に～」には、世界中の一人ひとりが健康ですこやかに生活できる社会を、私たちの手で切り拓いていく、という強い意志を込めました。

これまで培ってきた技術と知見を活用し、「循環器」「呼吸器」「ペインマネジメント」領域において、脳卒中や心不全などの「脳・心血管疾患の発症ゼロ」、喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの「呼吸器疾患の増悪ゼロ」、膝痛や腰痛などの「慢性痛による日常生活の制限ゼロ」の3つのゼロにチャレンジします。

そして、病気にならない、病気を重症化させないための予防医療という新しい価値を提案し、「健康であり続けたい」という世界中の人々の願いをかなえます。

2021年、グローバルでの家庭用血圧計の累計販売台数は3億台を突破しました。しかし、世界を見渡すと、まだ普及率は低く、市場規模は2020年の6,100万台から2024年には、8,700万台に拡大するとされています。中でも、今後ますます市場の拡大が見込まれる中国・インドに注力し、基盤事業を強化します。

また、高齢化に伴う慢性疾患患者の増加、医療従事者の業務負担の増大、医師不足など、医療をとり巻く課題はグローバルに顕在化しています。家庭で測定したバイタルデータを医療現場とつなぎ、医師の診療をサポートするサービスを社会実装することで、医師の負担を軽減し、誰もが最適な医療を受けられる予防医療の仕組みを構築します。さらに、脳梗塞の主要な危険因子である心房細動を家庭で早期に見つけ、治療を促すために、家庭での心電図記録の普及にグローバルで挑戦していきます。高血圧患者が抱える心房細動という見えないリスクを“見える化”し、心房細動を起因とする脳梗塞という循環器イベントの発症を未然に防ぎます。そして、心電図記録など、イベント発症に関係する血圧以外の指標を把握するためのデバイス開発にも取り組んでいきます。

ここ数年、コロナ禍における国際物流の混乱や半導体不足、ロシア・ウクライナ情勢の悪化など、事業を取り巻く環境において予想を上回る変化が起こっています。環境に左右されることなく、お客さまの期待にこたえるための取り組みとして、昨年度は、部品から市場の商品まで、全ての在庫をグローバルで一元管理し、必要な時に、必要な人へ商品をお届けするためのMTA(Make to Availability)生産体制を構築しました。今年度は、電子部品の標準化や適性な量の部品保有など、購買戦略を磨き上げ、安定した商品供給のための部材調達力を高めます。

また、環境に配慮した紙パッケージの導入、カーボンニュートラルなもののづくりなど、脱炭素・環境負荷低減に向けた取り組みも積極的に推進し、世界中の誰もが健康ですこやかな生活を送ることができる、持続可能な社会を創出します。

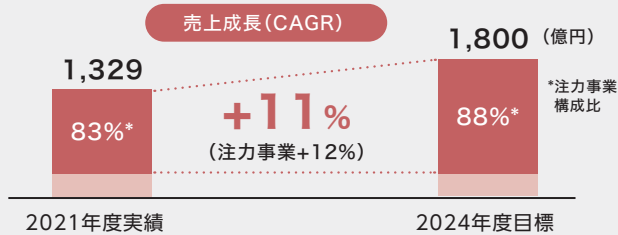


執行役員常務
オムロン ヘルスケア株式会社
代表取締役社長

荻野 勲

「SF 1st Stage」について

目 標



社会価値KPI

グローバル血圧計販売台数
9,400万台 (3年間累計)
 遠隔モニタリングサービス利用者数
60万人 (累計)

1st Stageでは、私たちの事業基盤である血圧計の販売をグローバルに拡大し、3年間の累計販売台数9,400万台を目指します。また、新たな取り組みである遠隔モニタリングサービスの利用者を60万人にまで広げ、「Going for ZERO～予防医療で世界を健康に～」の実現に向けた、礎を築きます。

注力事業



循環器



呼吸器



ペインマネジメント



遠隔モニタリングサービス

ヘルスケア領域の巨大な市場であり、今後も大きな成長が見込まれる中国、インドでの事業を拡大し、事業基盤を作り上げます。そして、サービス事業では、米国・英国でスタートした遠隔診療サービスを軌道にのせ、新たなサービス創出につなげます。さらに、3つのゼロ(ゼロイベント)実現に必要な革新的デバイスの開発に取り組み、サービス事業に活用していきます。

主な取り組み

1. 中国、インド市場の深耕

経済成長や高齢化に伴う高血圧患者数および呼吸器疾患患者数の増加により、さらなる市場拡大が見込まれる中国、インド市場に注力し、収益基盤を強化します。

中国の血圧計市場は、2020年の約2,100万台から、2024年には3,000万台に増加すると言われています。私たちは、中国の中でも経済成長が著しく、2024年にはGDPが1、2級都市を上回ると言われる3、4級都市を攻略します。1、2級都市で築いてきたオフライン/オンラインチャネルを3、4級都市に展開。協業パートナーとの連携を強化し、オムロン商品が体験できる「オムロンヘルスコンビニ」を通じたお客さまとの接点を拡大します。呼吸器事業では、市場ニーズの高いネブライザの商品ラインナップを強化します。また、喘息患者特有の喘鳴音を検知する喘鳴センサを発売。小児喘息専門の院内管理センターの医療従事者と連携し、専門医療スタッフによる最適な治療をワンストップで提供する院内モデルを構築し、喘息患者により良い治療を提供していきます。

また、2025年に撤廃される水銀式体温計を電子体温計に置き換える動きが活発になります。高速の予測式電子体温計の有用性を、医療従事者に浸透させ、病院での導入に取り組みます。そして、病院で使われているという信頼性を活用し、家庭での検温にもオムロン電子体温計を普及させることに取り組みます。

高血圧患者が約3億人といわれるインドは、巨大ポテンシャル市場でありながら、現在の血圧計の普及率が約3%であり、家庭血圧の浸透が課題となっています。また呼吸器疾患領域においても、ネブライザの普及はまだ途上です。



オムロンヘルスコンビニ

そこで、血圧計・呼吸器カテゴリの需要創造を行い市場拡大に取り組みます。消費者には、オムロン商品が体験でき、カスタマーサポート窓口も備えたエクスペリエンスセンターを主要都市から順次展開し、実際に商品を体験いただくとともに、家庭血圧の重要性やネブライザの有効性などの啓発活動を行います。また、医療従事者向け教育プログラム「オムロンアカデミー」を推進し、高血圧治療における家庭血圧の重要性や呼吸器疾患に関する啓発活動に取り組み、医療現場での活用を促します。

2. 「家庭での心電図記録文化」創造へのチャレンジ

SF2030では、ゼロイベント実現のため、イベント発症の要因の1つである「心房細動」を家庭で早期に発見するデバイスやサービス展開を推進し「虚血性心疾患の早期発見」と「心不全の増悪予防および予兆検知」にチャレンジします。1st stageでは、心房細動のリスクや家庭での心電図記録の重要性を医師、患者双方へ啓発するためのビジネスモデルに取り組み、「家庭での心電図記録文化」創造を推進します。



インドのドラッグストア



携帯型心電計HCG-8060T

3. 遠隔モニタリングサービスの利用者拡大

英国・米国では、遠隔モニタリングサービスが保険適用化されるなど、市場が顕在化してきています。すでにサービスがスタートしている米国の「バイタルサイト (VitalSight) ^{*1}」、英国の「ハイパーテンションプラス (Hypertension Plus) ^{*2}」では、その降圧効果や医療費削減効果といった遠隔診療サービスの有用性が確認されてきました。一方、患者の治療継続サポートの必要性や、新規患者登録時の現場の業務負担増といった課題も見えてきました。そこで、企画・開発・営業といった社内体制を強化し、顧客管理や請求業務などの業務サポートシステムによる現場の業務負担軽減に注力します。また、英国では、地域医療を運営する総合ケアシステム (ICS) の1つである、ドルセット (Dorset) と連携し、ハイパーテンションプラスの臨床効果、有用性に関する医師/患者双方の声を収集。かかりつけ医のサービス導入決定に大きな影響力を持つドルセットからそれらの声を発信することで、すでに多くの医療機関から引き合いをいただいています。

米国と英国で、臨床効果や医療費削減効果といった遠隔診療サービスの有用性を確実に示すことで、利用者拡大をはかり、サービス事業の基盤を確立します。

^{*1} バイタルサイト (VitalSight) : 2020年9月に北米でスタートした、遠隔モニタリングサービス。患者の家庭測定データを医師と共有することで、効率的・効果的な治療を実現する。
^{*2} ハイパーテンションプラス (Hypertension Plus) : 2021年4月に英国でスタートした、家庭血圧を用いた処方プラン提案を特長とする、遠隔モニタリングサービス。

4. 脱炭素・環境負荷低減に向けた取り組み

事業活動にともなう環境負荷を把握し、環境負荷低減に向けたさまざまな取り組みも加速します。

その1つとして、すでに日本で発売している体温計に使用しているプラスチック素材のブリスターパッケージを、環境負荷の少ない紙製に置き換えていきます。今後は、電動歯ブラシ、活動量計、低周波治療器へと対象商品を拡大するとともに、海外商品の紙パッケージへの置き換え準備をすすめ、プラスチック使用ゼロを実現します。

また、生産現場では製造工程での消費エネルギーを可視化。エネルギーの削減余地を把握し、無駄なく効率的に利用することで、エネルギー生産性の倍増を目指します。これらの活動を通じてカーボンニュートラルな工場を目指します。



(左) プラスチックを使った旧パッケージ
 (右) 環境に配慮した紙パッケージ

2022年の取り組み(共創パートナー)

家庭で心電図を記録することの意義を、パートナーと共に広め、ゼロイベントを実現

ゼロイベントの実現のために、脳梗塞のリスク因子であり、高血圧と併存して発症しやすい心房細動に着目しました。心房細動は早期発見・早期治療により発症リスクを低減することができますが、自覚症状が無く見過ごされやすいため、人間ドックや健康診断で確認できない場合もあります。

そこで、家庭で血圧を測定する際に、心電図も同時に記録できる心電計付き上腕式血圧計を開発しました。記録した心電図は、専用アプリ「オムロン コネクト」で分析し、心房細動の可能性をメッセージで知らせます。そして、より多くの高血圧患者の心房細動を早期に発見するために、今年度より一般社団法人スマートヘルスケア協会とパートナーシップを結びました。地域の生活者が利用する、調剤薬局やドラッグストアで、心電計付き上腕式血圧計とチェックシートを活用した「心電図による受診勧奨モデル」を展開しています。

店内に設置された心電計付き上腕式血圧計で心電図を記録し、心房細動の可能性が確認された場合は薬剤師が受診勧奨を行います。

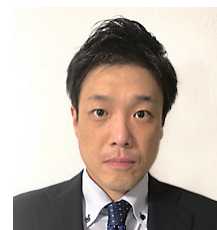
日常生活の中で心房細動を早期に発見する機会を増やし、治療を促すことでイベント発症を未然に防ぐ取り組みです。



受診勧奨モデル導入ドラッグストア

社員のコメント

日本初となる「心電計付き上腕式血圧計」を2022年3月に発売しました。しかし、心電図を家庭で記録することで、脳梗塞の原因ともなる心房細動のリスクを確認できるという新しい価値を、どのように生活者のみなさんに伝えたら良いのか。社内で議論を重ねる中、薬局やドラッグストアで新たな事業モデルの創出や、サービス提供の環境づくりに取り組まれている一般社団法人スマートヘルスケア協会様にご協力いただきたいと声があがりました。そして、「調剤薬局を活用した受診勧奨モデル」を開発し、一緒に取り組んでいただくことを快諾いただきました。今後もスマートヘルスケア協会様と連携して、このモデルを全国の薬局・ドラッグストアに広げ、心房細動の早期発見、ゼロイベントの実現に向け邁進します。



健康機器営業部 東部営業課
伊賀 隆

共創パートナーのコメント

私たちは、生活者の“健康でいたい”という想いにこたえるために地域住民の健康に寄り添う薬局・ドラッグストアでの健康サポート活動を支援しています。日本の心房細動の患者数は2030年には108万人を超えるといわれていますが、それがどのような病気なのか、どんなリスクがあるのか、生活者にはまだ浸透していません。生活者の健康状態の変化に気づき疾病予防や健康増進に貢献することや必要に応じて病院の受診を促すことは、薬局・ドラッグストアの役割であると考えます。今回、オムロンヘルスケアとともに、受診勧奨モデルの導入を働きかけ、運用に関わる資料の作成、薬剤師等の研修などを手掛けました。これからも地域住民の健康をサポートするという薬局やドラッグストアの価値向上に貢献していきます。



一般社団法人スマートヘルスケア協会(SHCA)代表理事 岡崎 光洋 先生

2022年の取り組み(共創パートナー)

インドでの家庭血圧の普及

経済成長に伴う生活習慣の変化や高齢化の進展などにより、インドでは高血圧患者が増加し続けており、血圧計市場は2030年度に約1,400万台と、中国に次ぐ世界2位の市場になると予測しています。

しかし、医療現場で家庭血圧を治療に活用したり、患者が家庭で血圧を測る習慣はまだ根付いていません。

私たちは、医師/患者に家庭血圧の重要性を啓発し、インドに「家庭で血圧を測る文化」を浸透させていくための取り組みを強化しています。

その1つとして、糖尿病や高血圧症などの慢性疾患管理サービスを展開するインドのオンライン診療サービスプロバイダーであるテラルス社と業務提携を行いました。始めの取り組みとして、テラルス社の運営するオンライン診療サービスにオムロンの血圧計を導入し、家庭血圧を利用した高血圧管理を浸透させるとともに、医師・患者双方へオムロンブランド、オムロンの家庭用血圧計の認知拡大をはかります。



社員のコメント

糖尿病や高血圧などの患者の増加は、インドの社会的課題になっており、政府が慢性疾患患者への遠隔診療の強化を発表するなど、その取り組みが急速に進んでいます。また、コロナ禍で、国民の健康意識も高まっていると感じています。私たちは、家庭血圧が浸透していないインドでのゼロイベント実現に向け、志を同じくするテラルス社とともに、医師・患者双方に家庭血圧の有用性を理解いただき、インド国民の健康に貢献していきます。



オムロン ヘルスケア インド
山本 克行

共創パートナーのコメント

インドでは医療の質やアクセスが社会問題となっています。我々は10億人のインド人にサービスを届けるべく、オムロンと共に慢性疾患患者の管理を包括的に行うサービスを展開しています。オムロンは我々の進む方向性と一致するビジョンを持っています。オムロンとのパートナーシップにより、インドにおける社会課題の解決を加速させていきます。



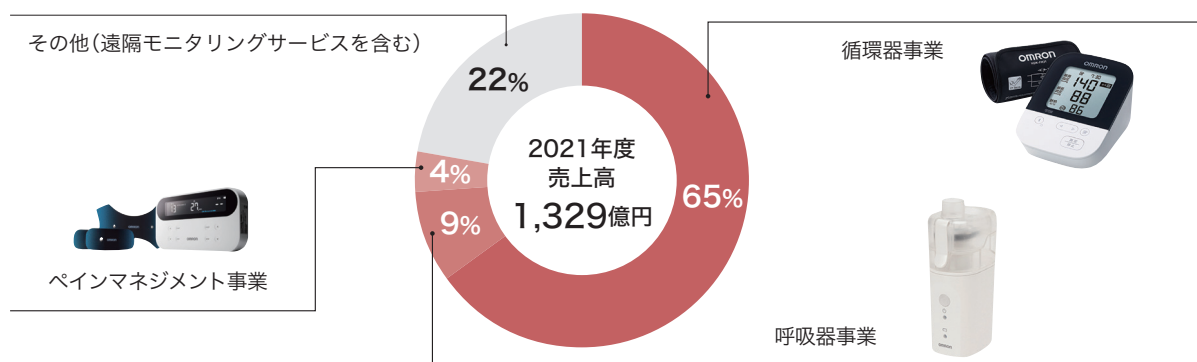
共同創設者 兼 CEO テラルス・テクノロジー社 スミット・シンハ 氏

テラルス社(Terrals Technologies Pvt. Ltd. 本社:インド バンガロール。2017年設立。) 糖尿病や高血圧症などの慢性疾患を扱う医師向けに、オンライン診療プラットフォームを開発・提供。

2021年度 事業ハイライト

2021年度は、血圧計の需要は、コロナ禍による慢性疾患の重症化予防に対する意識の高まりを背景に、グローバルで継続的に拡大しました。ネブライザの需要は、患者の通院機会の増加に伴って回復基調で推移しました。前期において急増した体温計の需要は、反動で減少しました。上期にはコロナ禍影響による工場操業制限があり、第3四半期以降にはサプライチェーン混乱があったものの、製品の設計変更や輸送ルートの切り替えなどを迅速に実施し、旺盛な需要を着実に捉えた結果、売上高は前期比で増加しました。固定費抑制や付加価値向上に取り組みましたが、部材価格や物流費の高騰により、営業利益は前期比で減少しました。この結果、2021年度の売上高は、1,329億円(前期比7.9%増)、営業利益は、185億円(前期比9.9%減)となりました。

事業別売上構成比



(HCB)ヘルスケア事業の強み

- **グローバル許認可の取得対応力**
各国の医療機器認証を90カ国で取得。使いやすさだけでなく、各国から要求される安全性と、国ごとに異なる社会インフラや医療システムに対応したデバイス・サービスを展開。
- **グローバル販売チャネル/シェア**
グローバルで60万軒以上の販売チャネルを有し、家庭用血圧計でNo.1のグローバルシェアを保有。
- **革新的なデバイス・サービス**
世界初のウェアラブル血圧計や心電計付き血圧計や、家庭での生体データを活用した遠隔モニタリングサービスなど、革新的なデバイス・サービスを創出。
- **世界中の医学界・医療現場からの厚い信頼**
自社の血圧計が、家庭血圧に関する研究論文の65%にあたる200件で採用。 *2000年～2018年11月 自社調べ

INPUT

- 成長投資*: 計2億円
- 研究開発費: 計79億円
- 設備投資費: 計44億円 (2021年度実績)
- 心電図解析プラットフォームを提供するマイクロメド社(ブラジル)に出資

OUTPUT

- 売上高: 1,329億円(前期比7.9%増)
営業利益: 185億円(前期比9.9%減)
- 血圧計の世界累計販売台数が3億台を突破。
- 英国で遠隔モニタリングサービスをスタート。また、インドでオンライン診療サービスプロバイダと業務提携。
- 心電計付き血圧計、モバイル心電計をグローバルで発売開始

OUTCOME

- 健康寿命の延伸や医療費の削減など、世界中の人々の健康ですこやかな生活への貢献。
- グローバル血圧計販売台数 2,500万台(21年度)
 - 遠隔モニタリングサービス利用者数 1万人(21年度)



SDGs ゴール3.4.1

* M&A含む。